

平成30年度 外国語活動実践・研究計画

部 員	○石田 智之, 小室 真紀
-----	---------------

研究テーマ
**仲間や言語に積極的にかかわり、
 コミュニケーションの楽しさを味わえる子どもの育成**

1 研究テーマについて

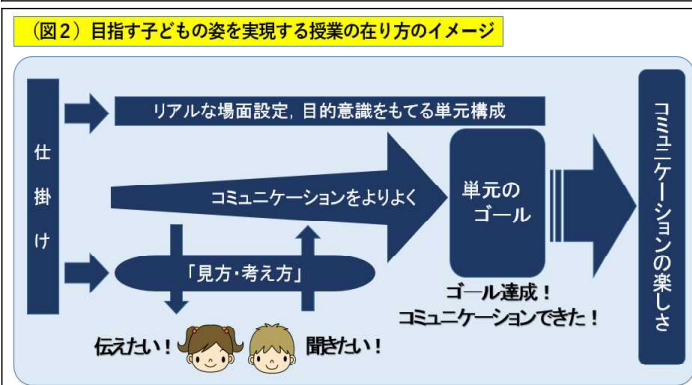
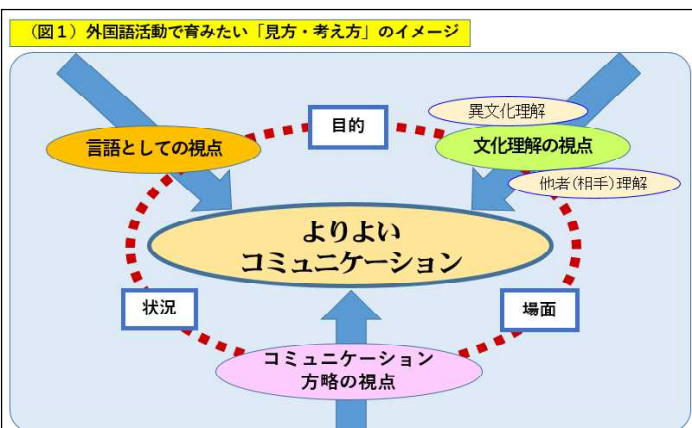
子どもたちが外国語を用いたコミュニケーション能力が高まったと感じ、成就感を味わったりすることができるのはどんなときなのだろうか。それはやはり「相手の言っていることが分かった」「自分が伝えたいことを伝えることができた」という喜びを感じ、楽しいと思えたときではないだろうか。このことから外国語活動部では「コミュニケーションの楽しさを味わえる子ども」をコミュニケーション能力を高めることのできた子どもの姿ととらえる。

こうした特質を踏まえ、外国語活動部では研究主題の「自律した学習者」を、コミュニケーションがよりよくなり楽しさを味わえるようになるために、必要な英語表現・語彙や文化、コミュニケーション方略等について自ら考え気付いていく子どもととらえた。また、研究副題の「学びをつなぐ」とは、積み重ねた語句や表現、文化理解、コミュニケーション方略等を用いた実際のコミュニケーションにおける気付きを、自らのコミュニケーション手段として汎用的に生かしていくことととらえている。

そのために、外国語活動で育みたい「見方・考え方」を(図1)のようにイメージしている。コミュニケーションを楽しむためには、「よりよいコミュニケーション」ができる必要がある。人と人がコミュニケーションしていくためには、コミュニケーションの目的・場面・状況に応じ、「どこ出身の人かな」「どんな人かな」といった「文化理解(相手理解・異文化理解)の視点」、「どんな言葉で伝えたらいいのかな」といった「言語としての視点」、「分かりやすい伝え方はないかな」といった「コミュニケーション方略としての視点」の3つの視点から考える必要があると考える。

このような視点で学習活動を整理した上で、コミュニケーションへの意欲の喚起、コミュニケーションを支える言語への慣れ親しみ・定着を促すことが必要ではないかと考える。子どもたちが意欲をもって活動に向かうためには、授業の中で目的意識をもたせることが大切である。そのために、「単元のゴール」を設定し、英語表現に必要な感をもって慣れ親しもうとする単元構成を工夫したい。「単元のゴール」到達に必要な基本表現・語彙への慣れ親しみをより確かなものとしていく。また、ゴールに向かう中での子どもたちの「もっと相手のことを知りたい」「これは何て言えばいいんだろう」といった思いを「なんとかして伝えたい」「なんとかして聞き取りたい」という意欲に、よりリアルなコミュニケーションの場で高め、そのための新たなコミュニケーション方略や語句や表現への気付きへと展開させていく(図2)。

以上のことを踏まえ、本校外国語活動部では「コミュニケーション」しながら言語・



非言語を駆使して他者と「対話」していく中で楽しさを味わってほしいと願っている。
 外国語活動で目指す「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」は次のようなものである。

単元のゴールに向けた見通しをもち、よりよいコミュニケーションのために必要とする「見方・考え方」を通した気づきを、他者とのかかわりによって深め、コミュニケーションを楽しめる子どもの姿

2 研究の重点

(1) 3つの視点を意識した、子どもが目的意識をもって取り組める単元構成と授業づくりの工夫

子どもが目的意識や英語を学ぶ必要感をもって取り組んでいくための仕掛けとして「単元のゴール」を設定し、単元構成・授業づくりの実践と検証を重ねていく。

特に、子どもが言語を聞く中で自然に慣れ親しんだりその仕組みに気付いたりできるようなインプット（言語に触れる・反復する）の仕方を研究し、インテイク（言語を自分のものとして理解・蓄積する）、アウトプット（言語を用いて実際に表現する）といった段階も意識した学習活動を設定していく。また、主にアウトプットの場となる単元のゴールとなる活動では、よりリアルなコミュニケーションが展開されるような単元構成を図っていく。

(2) 言語やコミュニケーション方法への気づきを促す授業づくりの工夫

外国語活動における「見方・考え方」（言語としての視点、文化理解の視点、コミュニケーション方略の視点）を働かせてよりよいコミュニケーションにつながる表現や方法について、子ども自身が気付いたり必要感をもったりできるような仕掛けと意識付けを図っていく。

また、自身の向上をふり返ったり実感できたりする機会やその方法の在り方を検討していく。

(3) 小学校外国語科実施に向けた研究と試行

新学習指導要領に向けた移行期の実施のしかたや、完全実施に向けた、外国語活動・外国語科の授業の在り方を考え、試行していく。また、インプットやアウトプットをスパイラルに積み重ねた活動計画の作成、教科化を見据えた授業づくりの工夫について研究し、実践していく。同時に、朝の活動として行うチャレンジタイムの英語の時間では、新学習指導要領に向けた、より先進的な活動を取り入れ、試行していく。

3 研究・研修計画

時期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動部会 ・附属中学校公開研究協議会(6/1) ・附属小学校公開研究協議会(6/8) 提案授業（石田：6 B） 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究計画の立案 ・授業づくり，授業力向上 ・授業を通して重点事項の検証
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要原稿執筆 ・オープン研修会（11/22） 提案授業（石田：6 B） ・大学との共同研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究のまとめ ・実践・研究計画の修正 ・授業づくり，授業力向上
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動部会 ・大学との共同研究 ・外国語活動教材や教具の作成・整理 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践・研究計画の立案

通年：年間指導計画の加除・修正